

平成 18 年度第 2 回次世代育成協議会第一部会（子ども育成）概要

平成 18 年 12 月 14 日(木)午後 3 時 15 分
区役所本庁舎 6 階 6 階会議室

出席者 坂内夏子、鈴木邦子、増田玲子、武田厚子、原克弘、立花加代子、坂本悠紀子、
平野克彦、菊池久子、菊池義和、新宿少年センター所長代理 菅井和男

1 開会 福祉部長挨拶

2 資料確認 説明 子ども家庭課長

3 議題

(1)「子どもの自立を視野に入れた」子育て支援・教育の取組みについて

方策案に基づき協議

ア 委員からの報告

イ 課題と方策

ウ まとめ

(2)新宿区更生保護女性会の取り組み

新宿区更生保護女性会 坂本悠紀子氏

4 議事

部会長

本部会の今年度のテーマにある「若者の自立」に向けて協議を進めていきたい。

前回は、実践例をご報告いただいた、今回は、その討議を受け、親と子、学校と地域、各団体のコミュニケーションそして、学校と家庭のコミュニケーションなど、質と量の充実について、共通課題として協議する。具体的な提案は、資料として配付してある。

各委員の方から課題解決の方策について、順番に発表していただきたい。

委員

親と子のコミュニケーションについては、実際の時間を増やすことで、食事から一緒にとることをあげた。このためには、「NO残業デー」等、働きかけたりすることが必要と思う。一緒に時間を過ごす、イベントの企画とか、みんなと一緒にいることを提案したい、また、作文のテーマに「家族」とか「親子」ということを出し、一緒に時間を増やすということが必要。親が子どもへの関心・興味を持って、子どもを知ろうと心がける取り組みが大切だ。

学校と地域のコミュニケーションについては、定期的な協議機関を設置して、何かあったら警察とも連絡するシステムをつくる。インターネットの時代に合わせ、ブログでのコミュニケーションを図ったり、日常的なコミュニケーションを図っていくことも必要。

また、いろいろな団体の会合の連絡を、区が関わる状態で行うとか、その中である程度、区が統廃合を行う形で実施していくことも必要。

委員

親と子、学校と地域、そして団体間のコミュニケーションのほかに、学校と家庭のコミュニケーションを追加していただきたい。

今子どもたちは、睡眠時間を除いた残りを考えると、学校で半分以上過ごしている。さらに塾とかおけいこごと、中学生だと部活などがイベントを占めており、共働きのお母さんたちは、仕事から帰ってきてもすぐ夕飯の支度、それから塾や部活から帰ってくる子どもを急がせて就寝させるまで深い会話というのがなかなかできない状態にある。そういった中で、一番長く子どもと関わっているのは学校の先生だが、先生は、調査文書・研修が年々多くなり、なかなか子どもとの時間がとれない。

P T Aでは、家庭、親子のコミュニケーションの強化、家庭教育の強化ということで、家庭教育学級、家庭教育講座などを実施しているが、保護者の参加が大変少ない。子どもの居場所づくりとして行われている「学校開放」や「居場所事業」も子どもが集まらないのが現状である。

その中で、区民会議の中の声というのは、本当に参加する側からの生の声だし、活動している人たちの本当の声だと思う。そういった声をしっかり受けとめて、今ある施策や活動をさらに実行するための有意義なものにしていくことが大切である。このような課題を協議するとき、1つの課だけではどうしても限界がある。次世代育成支援計画に関わるすべての課が連携して、全体の課の中で協議し有意義な話し合いにしてほしいと思う。

委員

学校と地域のコミュニケーションで、朝の登校のときに、危険箇所と思われるような場所（3カ所ぐらい）に保護者が当番制で、車を止めるためのウマを置いている。子どもの安全を考えて、随分長いことやっており、地域の人が絶えず目を配っている。良いことは継続していけばと思い参加している。

委員

6人の子どもがいる、小学校に入っている子どもとは、とりあえず時間を持ってなるべく話が聞けるようにしている、夫も巻き込み、自営なので朝昼晩と御飯を一緒にテーブルを囲んでいる。子どもが大きくなると話す機会も少なくなるため、プリントボックス入れの活用などをしている。

学校の行事は、やはり保護者の出席者が少なくなっている。自分は、学校の行事にはなるべく行くようにしている、行かないと子どもが学校でどういう生活をしていて、どういうふうになっているかというのが、全くもって見えてこない。自分が学校に足を運んで、行事を利用して行けば、先生の様子もわかるし、お母様たちの話や情報も入ると思う。各団体のコミュニケーションについては、連絡を密にし、それで多少は良くなるのかなと思う。

委員

親と子のコミュニケーションについては、地域が児童館と横の連絡を密にとるようにしている。児童館祭りとか、それから老人向けの行事のために丁寧な打ち合わせと称して、いろいろな情報の交流する機会を設けている。

学校と地域のコミュニケーションについて、今まで小学校同士は、別個に活動してきた。近くの市谷小学校は、区内でも小学生が多い学校で、1学年3クラスあるような学校だが、愛日小学校は、すごく歴史が古いが住宅が普通の大きい家が多いこともあって小学生は少ない。そうした中、地域の育成委員会を中心に、親父の会のようなものを組織しお化け大会などの行事の際に、互いに応援し交流ができた。また中学校でも、合唱コンクールの練習など、音楽の先生に話して、二校一緒に練習し、課題曲以外は別々にオリジナルにやらせようということがきっかけで、今では交流会のようになった。学校行事の行き来ができ、地域の運動会も全部一緒にやることになった。

各団体間のコミュニケーションについて、更生保護女性会でやるコンサートが、結構大がかりなもので、最初の年は600人も来てもらった。自分たちだけで行うのは無理かもしれないというので、ボランティアを募集した。中学校、高校、大学生と、とても自発的にボランティアの子どもたちが来て、小さい子どもと一緒に踊ったり歌ったり、楽器を運んだり、絵を張ったりということができて、これはとてもうまくいっている。子育てに関係のある活動をしている団体を全部活用して、そこだけにこれを頼む、こっちのグループにはこれを頼むということで、成功しているのではないかと思っている。

そして、その機会を通じて、育成委員会の方と保護司会の人と一緒にお昼を食べたり話し合いができたという効果も出てきている。

委員

祖父母がいて親が沢山いるような感じで育った。今は、あまり多くの家族の中で育っていないという例もあるように思う。父親の出番をつくってもらいたい。正確には忘れたが、一日で母親が子どもと関わっている時間は、7時間余あるようだが、父親が関わる時間は3時間ほどしかないという。父親との関りというのは、もっともってあってもいい。今、居場所事業で多くの近所の皆さんや地域の皆さんにお世話になっているが、そういうところにお父さんにも出て来てもらい、お父さんの出番を期待できるような事業をしたらどうか。

2つ目に、家族そろって食事ができるかどうかというのは、今大きな問題だと思う。夕食献立計画、例えば御飯は子ども、私がつくった、味噌汁はお父さんがつくった、主菜は兄弟の弟がつくった、あるいは妹やお姉ちゃんがつくった、副菜はお母さんがつくった、そういうものが1食分としての献立を実際につくったものを、コンクールでもしたらいいんじゃないかな。食卓を囲んで、テレビ抜きの話ができるような、そういう場づくり、親と子のコミュニケーションをもっと時間をつくったり、チャンスをつくったりしてほしい。

地域とのコミュニケーションについて、地域の方たちには学校にご協力をいただいて関りは豊かになったが、本当は中学生を地域で使ってもらいたいと思っている。中学生は、いい経験をきっとたくさん持っている。地域の幼児や小学生に対して、先輩として中学生が何かいいことをしてあげられるのではないか。

よく、障害がある人たちや老人ホーム等の高齢者の皆さんに、自分たちの部活動、演奏活動を紹介しているが、幼児や小学生、地域の自分より小さい子どもたちにも何か手を貸そう、教えてやろう、あるいはお話をしあげようということもあるのかなと思っている。

そして、当然自分たちよりも人生経験豊かな高齢の皆さんや障害がある方に、ボランティア的な活動でいろんなお手伝いをする。中学生にいろんな話をしてくれたり、あるいはお礼をいいながら感謝の気持ちを示してくれたりする。そして中学生がもっともって心豊かになる。そういう関係がきっと生まれるに違いない。

本校でも、かしわ宛や幼稚園に行って楽しい活動をしているが、もっと定例的に行えるといいと思う。

行政における取り組みも含めて、関係機関がネットワークを充実させながら、いろいろな意味で関わりあいながら事を進めていく体制というのが、もっともっと充実するといい

事務局

19年度放課後子どもひろばの実施について説明。

小学校の放課後の教室、それから校庭、体育館等を活用して、遊びの支援者と学習の支援者を配置して、放課後の子どもの遊び場を広げていこうという取り組み。来年

度については、モデル6校を選定して、6月から遊び場として使えるような形にしていきたい。登録をしていただいた子どもたちは、ランドセルを置いて夕方まで遊べる、高学年が授業をしているときは、使えない部分もあるが、その中でも使える場所を活用して、広げていこうという取り組みだ。

詳細については、まだいろいろ詰めていかななくてはならないが、具体的にどう運営をしていくかについては、運営委員会を教育委員会で設置し、子ども家庭課も一緒に入って、学校やその地域の児童館、それからPTAの皆様にも入っていただき、よりよいものにしていくよう今取り組んでいる。

今までの居場所事業というのが、週末とか単発の、どちらかというイベントだったが、今回のこのひろばは、平日の学校の放課後について、日常的に遊び場所として活用していこうというコンセプトである。そのほかに、これまでの居場所事業というのを、地域スポーツ・文化クラブ等で3つの事業を統合した中で、地域のボランティアの方などに単発で事業をしていただく、同調していただくというようなことも連携しながらやっていきたい。また、学校によっては、学童クラブが空き教室や特別教室を転用したり、休園中の保育園を学童クラブとして今増築しているところがある、ここでは、学童クラブ事業も一緒に入っていく予定である。組織と組織の連携によって、いろいろな事業も動かしつつあるということでご紹介をさせていただいた。

委員

放課後子どもひろば全部総合的なものになったと思う。地域の方というと、割合高齢の方が多いが、中学生とかあるいは専門学校生徒たち、あるいは教職、教員になりたいという大学の人たちを、子どもたちの意識を高める上でもいいのではないかなと思う。

事務局

高齢の方ももちろん、教員志望の大学生やそういう方に十分活動していただけるように考えていきたい。

委員

緊急の時の緊急連絡体系について、前回話したのは、教育委員会から連絡があって、ではどうして私立幼稚園にはそのとき回していただけなかったのかということだ。教育委員会がもし小学校に連絡してくれたのだったら、私立幼稚園にも連絡してほしい。危機管理課が現在検討中ということなので、今後に期待したいと思うが。

事務局

今、教育委員会、学校・地域で起こったことは、一括して危機管理課の方にまず集中して、そこから全体に連絡するようになっている。以前は学校関係で起こったことが、福祉関係の施設に回らないということもあった。その反省の中で、子どもに関する施設に、きちんと連絡を回していこうということになった。私立幼稚園も含めて、危機管理課の方で考えていく趣旨だ。

子どもの安全についての連携について、中野区の事件の問いに対して、私立幼稚園についても、現在速やかな連絡体制について危機管理課で検討している。事件発生した後で、いろんな情報が入ってくるが、その事実確認を警察等に行いそれに基づいた情報を役所の方から出すということだ。そこについては時間のかかることもあるということでご了解いただきたい。

委員

3月の第二回次世代育成協議会に提出する資料については、たたき台をつくっていた
だき、それに基づき委員からの意見をまとめて協議会の資料としてつくっていただき
たい。

事務局

一度案をつくったら皆様に意見をいただく、もう少し膨らませた方がいいとか、書
き込み、訂正はしていただく予定だ。単なる箇条書きでは、やはり語りつくせない
というものというのは、すごくあるのだろうなと思っている。本日のところで皆様の共
通理解が得られれば、事務局の方も今後案をつくるにしても持っていきやすい。

委員

子どもの定義について、ある程度前文で意図的なところで定義したらいいと思う。

事務局

計画等をつくるときに、その定義、年齢の幅というのは必ず出てくる。次世代育成
支援計画をつくるときに、そこをきっちり定義はしていない。

行政の児童福祉関係の計画では、18歳未満ということで想定したものが多い、今、
ニートといわれる自立できない若者層、そういうところも含めて幅広くとらえていく
のが次世代育成支援ではないかという議論の中で、子どもというのを自立するまでと
とらえて来たこれまでの経緯を一応ご了解いただきたい。

事務局

まとめのイメージについて、食のことはかなり出ていたと思う、親子のコミュニケ
ーションの中で、食事というのがキーワードになるだろうと思っている、若者と幼児
と下の年代の接点のつくり方とか、そういうものについても一例としてあった。関係
あるところがそれを受けとめて今後につなげていく。

委員

区の審議会との、リンクは.....。

事務局

それぞれ別である。基本構想、基本計画の審議会では、かなり具体的にやっていく。
区の審議会に入っていないものでも、まだ大切なものがあると思うので、実施計画等
に反映し、計画事業ではなくても、今あるものを変えて良いものにしていくこともで
きと思っている。例えば「家庭教育学級」などの意見は担当にきちんと伝えていく。

会議の持ち方について、次世代育成の本部会議は、全庁的な体制でやっており、そ
こに上げていくが、反省としては、部会についても健康部とか関連のところの担当者
が傍聴するなり、ときにはお答えするなりというような体制もつくっていくような工
夫は必要があると感じた。担当課としてしっかり受けとめていきたい。

新宿区更正保護女性会の取り組みについて

講師 坂本 悠紀子氏

全国に21万人の会員が活動している。東京は33地区に分かれて活動している中の、
1地区で、会員は350人。

5年前に、お母さんの手助けになるQ & Aという本を作ろうということになりアン
ケートをとった。その中で気がついたのは、父子家庭への援助が少なかったとか、保
育園に行ったけれども、上の子と次の子が別々で大変だとかの声もあった。

更生保護女性会の基本は、犯罪を犯した人が再犯しないためにフォローしていくことである。3本建てが綱領にある。

身元引受人がない人は再犯率がすごく高い。身元引き受けのない人たちの保護会を援助するため、衣類を集めた。夏刑務所に入った人は、冬に出てきたらショートパンツにTシャツのため、即その日から困る。そういう人たちのために、お料理をつくりに行ったりその人たちが自炊できるような簡単な料理を教えに行ったりしている。

犯罪予防活動について、各中学校に出向いて弁護士を講師に講演会を行った。今の子どもは犯罪についての自覚が薄れている。貧しいわけではなく、服もあり家もあり親もいるし風呂があっても別のものを盗む。犯罪予防のために講演会をしたが、講演会には、結局、問題児童は誰も来ない、それで現在は出前で活動を行っている。

薬物乱用の防止について各学校での講演会を行った。

薬物を使った人を知っているかといったら、20人から30人、どこの中学校もいる。ゼロというのはない。全然悪びれた様子がなく、先生はあつという顔をして見ている。薬物を使った人はどうなっていて、どういうふうになって、今、松沢病院でどういう生活をしているかまでみんな教える。高校生でも遅いという意見を出したのを持って、中学校に行っている。自分たちが見て、そのデータを持っていかないと説得力というのはない。冊子を自分たちでつくって、地域で配っている。

ゼロ歳から参加ができ、子どもにじっとしているよう言わなくてもいい「ハロウィン・キッズ・コンサート」を開いた。音楽は絶対にいいものを聞かせたいと、N響の方にボランティアで来ていただいた。最高の楽器をヤマハから借りてきて、その費用を会の方で捻出した。

中学校の生徒会にお願いしボランティアを募集し大いに活用している。日当はないがお昼御飯は、心を込めて老人給食をつくるおばさんたちがつくる。

38の幼稚園と保育園が参加した1,273枚のお皿の絵を全部展示し、コンサートのディスプレイに使っている。

新宿区内には多くの大学がある。近くに上智、御茶の水、法政、理科大、それから早稲田大学の学生寮がある。寮長さんなどをお願いして、ボランティアを募集し、今年は8大学から来てくれた。

自分たちの勉強会のほか、子どもを犯罪者にする前に、お母さんも子どもも、地域の中で顔がわかるような交流をつくりたいと思っている。

犯罪予防のためにも、エイズの研究会もした。講師のお医者さんもボランティアで来てくださった。先生のユーモアにあふれたお話の中で子どもたちの性の現状、エイズの深刻で危険な実情を知ることができた。

今後とも新宿更正保護女性会にご協力ください。ありがとうございました。(拍手)

福祉部長

午後から基本構想審議会があった。きょう骨子案がまとまり、区の広報で12月25日に発表し、皆様方のご意見を伺って、それを反映していくという形で進んでいる。今後の新宿区が目指すまちの姿と言う形で、射程距離も長いし、大きな構想である。今年度の部会では、やはりそれぞれ地域や学校や家庭、そして区もさまざまな事業を行っているわけだが、それぞれがうまくいっているものもあれば、目的にすれ違って

いるような、様々な問題がある。子どもの姿も変わっていつている面もあるだろうと。そういったものを、現場としてどううまく改善していこうか、一生懸命やっていこうかという形でのご意見を伺っているというふうに考えている。今日、戴きました意見をもとに、事務局の方で案をまとめまして、皆様方にフィードバックをして、3月の協議会に、ちゃんとした形で報告をできるように、やはり2回の部会としての結果を出していきたいと思っている。

部会長

本日の内容を踏まえ事務局にお願いしたい。本日はありがとうございました。